

真宗大谷派 慈雲山 瑞蓮寺

慈雲会

〒604-8214

京都市中京区新町通蛸薬師下る

百足屋町375番地

TEL/FAX (075)221-4616

zuirenji@hotmail.com

http://www.zuirenji.net/

SinsyuuOotaniha

JiunzanZuirenji

Jiunkai



慈雲

時韋提希

禮已拳頭

見世尊

釋迦牟尼佛

いだいけ

時に韋提希、

礼し已りて

こころへ

頭を挙げて、

世尊

しゃかむにぶつ

釈迦牟尼仏を見たてまつる。

【『観経』の言葉】

その時の韋提希夫人の驚き・喜びの光景が描かれています。まず驚きです。なぜなら夫人は本心ではお釈迦さまを願いながらも口頭では仏弟子の目連と阿難を請うたのです。

それにもかかわらず頭をあげたら目の前にお釈迦さまが立っておられたのですから驚いたことでしょう。と同時に喜びがみるみるうちに沸き起こってきたに違いありません。

かつてある方が曾我量深先生に「あなたの事はあなた以上に知っています」と言われたそうです。師とはそういうものでありましょう。そういう師と出会えた韋提希夫人は何より幸いです。ありました。

今月は

印度西天之論家
いんどさいてんしろんけ

中夏日域之高僧
ちゅうかじちいきしこうそう

頭大聖興世正意
けんだいしやうこうせしやうい

明如来本誓応機
みやうにょらいほんせいおうき

の四句を学びます。

「印度・西天の論家、中夏・日域の高僧、大聖興世の正意を顕し、如来の本誓、

機に応ぜることを明かす。」と読みます。正信偈はここから後半に入ります。まず

現代語で見てもみましょう。

「はるか西方の国インドの論主達、それから中国、日本の高僧達は、釈尊がこの世にお生まれになった真意を明らかにし、阿弥陀さまの根本の誓いが、人間そのものに応じるものであることを表明されました。」というような意味です。インドの論主とは龍樹・天親の事を指し、中国の高僧は曇鸞・道綽・善導であり、日本の高僧とは源信・法然をそれぞれ指します。これら三国にわたって七人の高僧たちが伝えてくださったもの、それが弥陀の本願であり、そのことを明らかにしようとされたのが釈尊であるという事です。

「弥陀の本願」は目に見えるものではありませんが確かに人を通じて伝わるものであります。ではそれはどのようなようにして人から人へ伝わるのでしょうか。喩えとしてあまりよくありませんが先日「アウトブレイク」という映画を見ました。猿が病原菌を持っており、その猿と接した人が感染するのです。つまりこの場合猿が、肉眼では見えない菌を運ぶキャリアー（運び屋）であり、それと接触することで菌が次々とうつるのです。

本願の念仏の場合は直接間接に師（よき人）に接して伝わるのです、親鸞聖人は法然上人という師と直接お会いしました。そこで師から本願の念仏を伝えられました。しかし、ただ「これをあなたに授けよう」と言ってもらおうようなものではありません。しいて言えば「よろこび」です。法然上人は善導大師の書物を読み、心によろこびを得られました。それは、私がお念仏を申して助かるということではなく、阿弥陀さまが長い時間をかけて私に呼びかけてくださったことに気づいたよろこびです。その法然上人に会われた親鸞聖人は法然上人の身と心からあふれんばかりのよろこびにふれてご自身の内にもよろこびがあふれてきたのです。

その善導は誰からよろこびを伝えられたかという道綽、道綽は曇鸞、曇鸞は天親、天親は龍樹というように歴史をさかのぼっていかれて見出されたのが三国七高僧です。親鸞聖人にとってこのインド・中国・日本の三国にわたる七人の先輩はお釈迦さまがこの世に現われて明らかにされた本願念仏の教えを私たちに伝えるために受け継いでいかれた方々なのです。

今年も地藏盆に参りました。ある町内では最近大念珠を新調されました。まだ房も真つ白ですが、何年かしたら珠にも艶がでてくるでしょう。百年後もこの念珠は地藏盆で回されているでしょう。その時には今年回した人はほとんどおりません。しかし、人が変わり、町の様子が変わってもこの念珠は回し続けられるでしょう。

三国の七高僧はそれぞれの国、時代を生きた人です。その時代その時代の問題を背負って本願念仏の教えを伝えていただくことができました。次回は、まずインドの龍樹菩薩の成し遂げた念仏興隆の事業から学ぶことになります。

【雑華雲】

最近読んだ本から少々感じた事を記します。

真宗相伝叢書の中の『略本私考』の冒頭の文章です。真宗門徒の聞法の仕方、御教えに対する態度について大切な事が述べられています。

兎角、今の時節は事実のめずらしき、義理のはなやかなることを談ずるを以て至極のようにおもう、これはこれ、何の詮なきことなり。(中略)ただ平生に取りあつかう知れたる義、覚えたる事を、幾度も幾度も聴聞して、心底に徹到するより外に学問はなきなり。自己の知解識情をはたらかさず、御教の一途を心底に徹するときは、我が方には覚えぬ知らねども、他人もおのずから信心獲得の利益を蒙る、ここを以て御教の一途を心底に徹するを以て本と教えたまう。これを、「自信教人信、難中転更難、大悲伝普化、真成報仏恩」(自ら信じ、人を教て信ぜしむること、難きが中に転た更た難し、大悲を伝えて普く化す、真に仏恩を報ずるに成る)と釈したまえり云々。

現代語訳してみますと「ややもすれば、

この頃は事柄の珍しさや意味合いの華やかである事をもつて最も大切な事とするが、これはまことに何の甲斐もないことである。(中略)ただ普段から取り扱っていて知っている内容や覚えた事を何度も何度も聴聞して、心の底に徹底することの他に学ぶということはないのである。自分の知識や理解力などの思いをはたらかさずにただみ教えをひとすじに心の底に徹底する時は、私の方には露ほどにもわからない事だが他人もおのずから信心を得るご利益をいただくことになる。だから、み教えをひとすじに聞いて心の底に徹底する事を一番大事なことで教えてくださったのである。これを善導大師はみずからがみ教えをひとすじに聞いて心の底に徹底すれば、それがまた人をして信ぜしむることになる。しかしそれはよくよくのご縁があつて出来ることである。仏さまの大悲のお心を伝えてすべての人々を救う、これがまことに仏様のご恩に報いることである、と説いてくださっている。」というような意味です。このことは宗教に限らずあらゆる分野にも通ずる事だと思えます。

【瑞蓮寺 同朋の会】

同朋の会では六月四日(土)から四回にわたって「阿弥陀経を読む」と題して御住職による『阿弥陀経』のお話をうかがっております。次回十月一日は最終回となりますが、今までの回の内容をご質問頂いても結構ですので、どうぞご参加下さい。

『阿弥陀経』を通して、経典とは？にふれてみては如何でしょうか。時間は午後二時からで、場所は瑞蓮寺です。

また、十二月には「第二回写真コンテラスト展示&投票」を行います。募集要項のチラシが瑞蓮寺にございますので、ご覧頂き、ふるってご応募ください。

【ご案内】

瑞蓮寺では書道教室を開講しております。ご興味のおありの方は、瑞蓮寺までお問い合わせ下さい。月謝等、詳しくは瑞蓮寺まで。

【お彼岸のお知らせ】

九月二十二日（木・祝）

秋の彼岸会法要を勤修します

午後一時より納骨堂を開きます

二時 お勤め

三時 法話

東館 紹見師

大谷大学教授

真宗大谷派

善林寺（岩手県）

副住職

終了後 お斎

~~~~~

【帰敬式のご案内】

今年も報恩講（十一月十三日）のお勤めの後で希望者による帰敬式を執り行います。これは「おかみそり」ともいい、私たちが法名を授かる儀式です。

法名と戒名は違い、真宗門徒は法名を授かります。

法名は亡くなった時に付ける名前と思われている方が多いようですが、実は生きていた間に授かるものなのです。

帰敬式で男性は「釋○○」、女性は「釋尼○○」という法名を授かります。そのこととは、お釋迦さまの名を一字戴き、**仏・法・僧**の三宝に帰依し「私はお釋迦さまの教えを聞き、人生を意義あるものとして生きていきます」という誓いの名告りでもあります。

ぜひこの機会に帰敬式を受けて法名を授かり、真宗門徒としての人生を歩んでいただきたいと思えます。

詳しくは、瑞蓮寺までお尋ねください。

~~~~~

【編集後記】

台風が通り過ぎ、九月となり、朝夕は幾分か涼しくなりましたが、かえって寒暖の差が激しくなり、体調を崩しやすい季節ですが、皆様如何お過ごしでしょうか。今回の彼岸法要の法話には東館紹見先生をお迎えする事となりました。

山一（※）では、度々お世話になっている先生で、瑞蓮寺の御門徒さんの中にも、

よくご存じの方もおられると思います。いつも難しい話を解りやすく楽しくお話して下さいます。私も今回はどのような、お話が聞けるのか楽しみしております。

秋は彼岸会・報恩講と続き、真宗がいつそう近くなる季節です。思ったこと、疑問なこと、何でも結構です、おたよりお待ちしております。

長塩浩史

※東本願寺に所属する寺院は「教区」きょうく「組」と言う単位でまとめられていて、瑞蓮寺は京都教区山城第一組に所属します。略して「山一」と呼ばれています。今後も、よく出てくると思いますが、覚えておいて下さい。

~~~~~

瑞蓮寺のホームページ

<http://www.zuirenji.net/>

瑞蓮寺のメールアドレスが変わりました

[zuirenji@hotmail.com](mailto:zuirenji@hotmail.com)